



FUTABA JOURNAL

静岡市葵区追手町10-71
静岡 雙葉 学園
新聞 部
電話(054)271-3254
印刷所 ササキデザイン社

総合優勝は北組!!

六月八日、草薙球場にて二年ぶりとなる体育祭が行われた。真夏の様な暑い日差しの中、全校生徒が東西南北の組ごとに得点を競い合った。総合順位は一位北組、二位南組、三位東組、四位西組となった。新型コロナウィルス感染症対策をして、高3生の保護者のみの参観となった。競技中の様子はメディア班を通して配信され、遠隔でも楽しめる様、複数のカメラを使って引きや接写で撮影され、臨場感溢れる映像となった。また、みんなでジャンプや二人三脚の競技は、密を避けるためみんなで8の字という競技に変更された。応援席前に掲げられた各クラスの横断幕はクラスを表す一言と共に迫力のあるイラストが描かれ、会場を盛り上げた。プログラムの最後を飾る理事長杯リレーは、中一から高3までバトンを渡す圧巻のレースである。一位は南組、二位は北組、三位は東組、四位は西組となった。中一、二生にとっては初めて、それ以外の生徒は久しぶりに身体を全力で動かし、クラスの団結を感じた体育祭となった。

ウェーブ 二〇二一



▲タイミングを合わせてジャンプ

中一は「ウェーブ二〇二一」を行った。ロープを持ち、つまづきながらも懸命に待機ペアの足元と頭上に息を合わせてロープを通した。

〔結果〕 西東北南

台風の日



▲ゴールを目指して走るアンカー

中二生は「台風の日」を行った。コロナ対策の為、例年とは異なり、三人一組で競技をした。コーンを回る際に、中心に寄るなど工夫をした。

〔結果〕 北西東南

大玉転がし

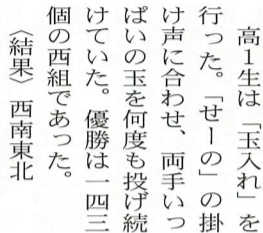


▲仲間へと大玉をつなぐ

中三生は「大玉転がし」を行った。コーンを中心に大玉を転がす際、中心の人は小回りで回るなど工夫をした。

〔結果〕 北南西東

玉入れ



▲皆で一斉に玉を投げる

高一生は「玉入れ」を行った。「せーの」の掛け声に合わせて、両手いっぱい玉を何度も投げ続けていた。優勝は一四三個の西組であった。

〔結果〕 西南東北

一球入魂 御輿



▲理事長杯リレーで南組が1位を決めた

高2生は「二球入魂御輿」を行った。二人一組になり、棒で大玉を挟み運ぶこの種目は前後で息を合わせ、スムーズにコーンを回ることが勝利の鍵である。当日は風も吹く中、受け渡しの際に大玉が落ちてしまうことも多くあったが、仲間の声援を受け再び走り出す姿が頼もしかった。

〔結果〕 南北西東

綱取り



▲息を合わせて大玉を運ぶ

高3生は炎天下の中、「綱取り」を行った。個人戦でもあり、団体戦でも

一年ぶりに 皆で迎えた 学園の日

六月一日(火)に学園の日のミサと音楽鑑賞会が静岡市民文化会館で催された。

今年本校の創設者二コラ・バレ神父様の生誕四百年となる節目の年であった。コロナ禍の中でも全校生徒が一堂に会することができたことに感謝し、皆で祈りを捧げた。ミサの中で高橋神父様は「雙葉の先輩方がつくった大きな『波』を校訓にある精神を基に未来へつなげてほしい。」と語った。

午後には金子三勇士氏と中野翔太氏による計八をぶつけ戦った。戦い前には陣陣を組んだり、声を掛け合ったりと団結力の強さが見られた。

〔結果〕 北東南西

始動! 「生徒会」



▲綱を取り合う

「For Us, To All Be All together」をテーマに掲げ、令和三年度前期生徒会の活動が始まった。会長の仁王さんと副会長の中島さんにインタビューした。(以下、会長は会副会長は副と示す。)

Q1 なぜ会長、副会長になろうと思ったか。

曲のピアノ演奏を鑑賞した。お二人の二台ピアノによる演奏は迫力があり、音が呼応していく息の合った演奏に生徒達は感無量の様子で聴き入っていた。



▲(左)中野翔太氏と(右)金子三勇士氏

新任の先生の紹介

新任の先生方四名にインタビューをした。

大野仁子先生



新任の先生方四名にインタビューをした。

A3 飼猫の世話です。
A4 自分の好きなものを見つけて増やし、良い人生にしてください。

木村 剛先生



新任の先生方四名にインタビューをした。

A1 生物(理科II)です。
A2 「狭き門より入れ」です。自分の考えをしっかりと持ち、周りに流されずにいることが大切だと思うからです。

A3 趣味は、武道と釣りです。
A4 勉強は楽しく学ぶことが重要です。だから楽しむことを心掛けて学んで下さい。

高山 大先生



新任の先生方四名にインタビューをした。

A1 数学です。
A2 「努力を努力と思

わない」です。中・高の部活動で結果を出すことに行き詰まっていた時に感じた言葉です。
A3 漫画を読むことです。「宇宙兄弟」は人と人とのつながりの意義を知れるのでお勧めです。
A4 目標を持ち、自分で考えて行動することを大切にして下さい。

吉澤雅登先生



新任の先生方四名にインタビューをした。

A1 物理と地学と中学の理科Iです。
A2 「好奇心を忘れるな」です。何事も楽しさを忘れてしまったら終わりだと思っています。勉強においても、楽しさを見つけて努力をしました。
A3 物理学と将棋と大喜利です。大喜利は自分の志を魅せる瞬間です。
A4 楽しく、元気に学びましょう！イエイ!!

れに向けた学習方法、部活動や学校行事の説明を受け、雙葉生としての生活を学んでいった。さらに、中一・中三交流会では、今年も先輩から後輩へ御メダルと手紙が渡され、サプライズに喜ぶ中一生の姿が見られた。

雙葉生としての生活

四月八日、晴天の下で入学式が行われ、百名の生徒が入学した。吹奏楽部の演奏と中三生の歌声により、式は華々しく挙行された。来賓の方、理事長先生、校長先生の祝



▲新中一生をもてなす聖歌隊

石の声

最近、静岡の街中や学校でも若者言葉を頻繁に耳にするようになった。若者言葉とは青少年が作るいくつかの特徴を持つ特有な語や言い回しで用いる言葉のことだ。人間は本来、社会的動物で仲間を大切にすることがある。言葉はその仲間と意思疎通をはかる為にある。仲間と様々な遊びをしていくうちに仲間だけに伝わる言葉が生まれ広まり始めると、それを知っている事が仲間であることの証明にもなる。このように、若者言葉は生まれ広まっていく。▼歴史を遡ると日本では清少納言の「枕草子」にも若者の言葉の乱れについて記述がある。「ピピ」という言葉は平安時代から使われている。大軍が動いた時、鎧が触れ合い、その音が「ピピン」と音が響くことから「びびる音」となり出来た。▼しかし、若者言葉は先輩の方々から不快に思われてしまうことがある。意味する意図が明確でないことや誤解が生まれやすいことが要因である。▼若者言葉で会話するのは楽しい。だが時には不適切だと受け取られてしまうこともある。公共の場などでは使わないなどの、その場に応じて使う言葉を見極めて、若者の持つ柔軟な言葉を楽しんでいきたい。

一面担当 真奈
二面担当 真唯

2年越しの遠足

四月二十八日水曜日に全校で遠足が実施された。昨年は、新型コロナウイルスの影響により、例年通りの遠足は行なわれなかったため二年ぶりの実施である。学年ごと異なる所へ行き、友人や先生方との時間を楽しんだ。

新たな仲間と

中一は浜名湖から遊覧船に乗り込み、浜松市立動物園とはままつラワーパークに行った。

浜松市立動物園では班ごとビンゴラリーを行い、班で協力しながらビンゴ二十五マスを埋めた。ビンゴが埋まるたび班員から笑顔が溢れ、距離がぐっと縮まった。新たな仲間と過ごした遠足は思い出深いものとなった。



▲カウウソを見る中一

ツクヤードでは研究員の方から博物館設立までの苦労や裏での仕事内容などをクイズ形式で丁寧に教えて頂いた。



▲研究員の方の話を聞く生徒

旧中一 コースへの第一歩
旧中一(現中二生)は、三月九日から十七日にかけて、クラスごとふじのくに地球環境史ミュージアムへ行った。同ミュージアムは旧静岡南高校をリノベーションして作られた。各クラス、グループごとに分かれ展示物やバックヤードを見物した。博物館内では駿河湾に見立てた部屋やセキツイ動物の骨の標本の部屋があった。また、バ

自然の中で

中二生は、山梨県南都留郡富士河口湖天上山ハイキングコースへ行った。初めに三分の一地点にあるナカバ平まで行き、間近で富士山を見た。少し雲がかかっていたが絶景だった。そこには天上山が舞台となり出来た「力チカチ山」の作者太宰治の記念碑があった。狭く険しい道のりであったが登り切った。



▲登山中の中二生

動植物と触れ合い

中三生は伊豆シャボテン動物公園に行った。園内にはガチョウ、クジャなどの鳥が放し飼いされており、触ったり餌をあげたりすることができた。またサボテンの温室もあり、サボテン狩りという好きなサボテン



▲カピバラに癒される中三生

を選び取り取るお土産が人気だった。動植物との触れ合いに癒された。

自然に触れる

高1生は富岳風穴と西湖の湖畔キャンプ場へ行った。

キャンプ場でのクラス対抗ドッジボール大会では歓声が響き、クラスの団結力が高められた。また、火起こしは各クラス一班ずつ成功させることができた。先人達の苦労を知った。その火を皆で囲み、それぞれ串でマッシュマロなどを味わった。



▲皆で火を囲む

文化や自然に接する

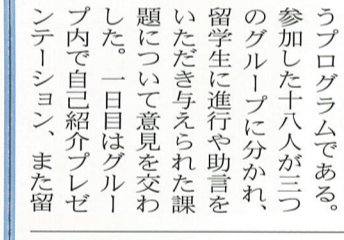
高2生はアクリル森に行った。東・北組は粘土を使ってお皿や花瓶を作る手捻り体験を行い、南・西組は素焼きのマグカップにデザインする絵付け体験を行った。自由時間にはアイスを食べ、長縄で遊ぶなどした。帰りに小國神社を訪れた。仲を深め文化や自然に触れた遠足となった。



▲自由時間にシャボン玉で遊ぶ

最後の遠足

高3生は、富士急ハイランドへ行った。昨年は研修旅行へ行けなかったため、例年と異なる遠足先となった。自分達で決めた班でアトラクションに乗った。また、弁当は持参せず、富士急ハイランド内で自由に飲食可能なミールクーポンを使用した。



▲初の共通テストで変化した出願状況

高1生は、五月十三日(木)、ベネッセコーポレーションの仲和志氏を講師にお迎えし、進路講演会を行った。

中高一貫校に通い、高校受験を経験していない為、高校生としての自覚が芽生えにくい生徒達に進路選択に向けた情報収集

集や学習習慣を身につけることの重要性を話された。又、高校一年生時は成績が変動しやすい時期である為、予習・復習を徹底し、土台作りを行うことが大学合格への鍵になるという。

文理選択を十一月に控える生徒達に、仲氏は自らの経験談を基に「周りに流されず、自分の興味・関心は何かを問い、慎重

な判断をしてほしい。人生は一度きりなのだから後悔しないように」と力強い言葉でエールを贈った。

“自分を深めたプログラム”
三月二十八日から三十日に本校でエンパワメントプログラムが行われた。中学三年生、高校一年生を対象とした「世界各国からの留学生と過ごす三日間のグローバル体験」というプログラムである。

参加した十八人が三つのグループに分かれ、留学生に進行や助言をいただき与えられた課題について意見を交わした。一日目はグループ内で自己紹介プレゼンテーション、また留

生は一度きりなのだから後悔しないように」と力強い言葉でエールを贈った。

リーダーから効果的な表現方法を学ぶ

学生が夢やその為に努力していることについてのプレゼンテーションを通して、日常にある課題について考えると同時に最終日に向けた効果的なプレゼンテーションについて学んだ。二日目は自分のアイデンティティ・リーダーシップ・将来の夢や目標をグループごとに話し合い、考えを深めた。三日目はSDGsについて解決案を出し発表した。最後に一人ずつ達成した事、自分の中の変化を踏まえた上で将来の目標についてプレゼンテーションした。初日は英語を話すことに恥ずかしさや不

安を感じていた生徒も、留学生に「Shy Shy Bye Bye!!」(Misake of Good Bye)と励まされ、積極的に発言していた。様々な国の留学生と交流でき、英語を手段として使う力だけでなくよりポジティブな自分を見つけたプログラムだった。

今年、新聞部に入部しましたS・Yです。新聞部が実際にカメラを持って走り回る姿や、オーブキャンパスでもらったFUTABA・JOURNALSの記事の楽しさに心魅かれて、入部しました。これから先輩から学び、まるで現場にいるかのような臨場感と新聞部だからこそ知る人々の思いをお伝えできるよう、がんばります。よろしくお願ひします。

令和二年度に離任された四名の先生方にインタビューした。

Q1 座右の銘
Q2 雙葉での思い出
Q3 今後何をするか
Q4 雙葉生へ一言

相澤 清先生

離任される先生方

八木由佳先生

A1 「優しく教える事は難しいこと」です。数学は難しいので優しく教えるようにしました。
A2 生徒と一緒に数学の問題を考え、生徒と一緒に静岡雙葉で過ごしたことです。
A3 趣味である数学に時間をかけたいと思えます。数学にもう一度向き合いたいです。
A4 色々な可能性を持つてるので若いうちに沢山挑戦をし、失敗してください。

コロナ禍の中で部員ともに可能性を模索しながら時間を過ごしたことが心に残っています。
A3 親の介護と子育てです。
A4 皆さんの頑張りを陰ながら応援しております!

事務職員

杉山和幸さん

A1 「借りた借りは返す」です。自分がされてうれしかったことは相手にもするという事です。
A2 皆さんと接する機会が殆んどなかったのですが、東側トイレを綺麗にし、喜んでもらえたと感じられたことです。
A3 主に孫の送り迎えをし、のんびりと家庭菜園を始めた事です。
A4 夢を持ち、その夢を、静岡雙葉を卒業するまでに叶えてほしいです。

編集後記

今年度新聞部に入部しましたH・Aです。新聞部に入ろうと思っただけは、入学時に配布されたミニパンフレットです。雙葉の魅力が分かりやすく伝えられていました。新聞部がつくったと知り、自分もその仲間になりたいと思いました。全校生徒の皆さんが楽しむことのできる新聞をつくっていきたいです。よろしくお願ひします。

- して各班ごと食べ物などを注文し、楽しい時間を過ごした。
- 令和二年度に離任された四名の先生方にインタビューした。
- Q1 座右の銘
Q2 雙葉での思い出
Q3 今後何をするか
Q4 雙葉生へ一言
- 相澤 清先生
- 離任される先生方
- 八木由佳先生
- A1 「優しく教える事は難しいこと」です。数学は難しいので優しく教えるようにしました。
A2 生徒と一緒に数学の問題を考え、生徒と一緒に静岡雙葉で過ごしたことです。
A3 趣味である数学に時間をかけたいと思えます。数学にもう一度向き合いたいです。
A4 色々な可能性を持つてるので若いうちに沢山挑戦をし、失敗してください。
- コロナ禍の中で部員ともに可能性を模索しながら時間を過ごしたことが心に残っています。
A3 親の介護と子育てです。
A4 皆さんの頑張りを陰ながら応援しております!
- 事務職員
- 杉山和幸さん
- A1 「借りた借りは返す」です。自分がされてうれしかったことは相手にもするという事です。
A2 皆さんと接する機会が殆んどなかったのですが、東側トイレを綺麗にし、喜んでもらえたと感じられたことです。
A3 主に孫の送り迎えをし、のんびりと家庭菜園を始めた事です。
A4 夢を持ち、その夢を、静岡雙葉を卒業するまでに叶えてほしいです。
- 今年、新聞部に入部しましたS・Yです。新聞部が実際にカメラを持って走り回る姿や、オーブキャンパスでもらったFUTABA・JOURNALSの記事の楽しさに心魅かれて、入部しました。これから先輩から学び、まるで現場にいるかのような臨場感と新聞部だからこそ知る人々の思いをお伝えできるよう、がんばります。よろしくお願ひします。
- 令和二年度 静岡県明るい選挙啓発ポスターコンクール 入選 中二西 高橋 佑羽
 ○第十九回 全国書道展 大学賞 中二東 正野 真子
 ○静岡浅間神社新春奉納書道展 静岡県教育委員会教育賞賞 中二東 正野 真子
 ○朝永振一郎記念第十五回「科学の芽」賞 努力賞 中二西 柳田 純佳
 ○中高生のための学会サイエンスキャスル二〇二〇関東大会 優秀ポスター賞 高2東 山田茉莉衣
 ○第五十四回 静岡県管打楽器アンサンブルコンテスト中部地区大会 銀賞 クラリネット三重奏 吹奏楽部
 銅賞 管弦八重奏 吹奏楽部
 銀賞 金管六重奏 吹奏楽部
 ○第五十四回 静岡県管打楽器アンサンブルコンテスト県大会 中学校の部 金賞 金管八重奏 吹奏楽部
 銀賞 木管八重奏 吹奏楽部
 銅賞 木管・打楽器七重奏 吹奏楽部
 ○第三十七回 山崎賞の選考 山崎賞 中二西 柳田 純佳
 ○はばたけ未来の吉岡彌生賞 高校生の部 優秀賞 高2東 山田茉莉衣
 ○第六十六回 静岡県青少年読書感想文全国コンクール 入選賞 高2東 山田茉莉衣
 ○第二十二回 中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会 入選賞 高2東 太田 桃果
 ○第二十二回 中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会 金賞 クラリネット三重奏 吹奏楽部
 ○第二十二回 中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会 銀賞 オーボエ独奏 高2南 勝又 美紀
 (学年・組は昨年度のもの)